

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年5月19日(2011.5.19)

【公表番号】特表2005-523980(P2005-523980A)

【公表日】平成17年8月11日(2005.8.11)

【年通号数】公開・登録公報2005-031

【出願番号】特願2004-501487(P2004-501487)

【国際特許分類】

C 0 8 G 77/12 (2006.01)

C 0 7 F 7/21 (2006.01)

C 0 8 G 77/50 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 77/12

C 0 7 F 7/21 C S P

C 0 8 G 77/50

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年3月31日(2011.3.31)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

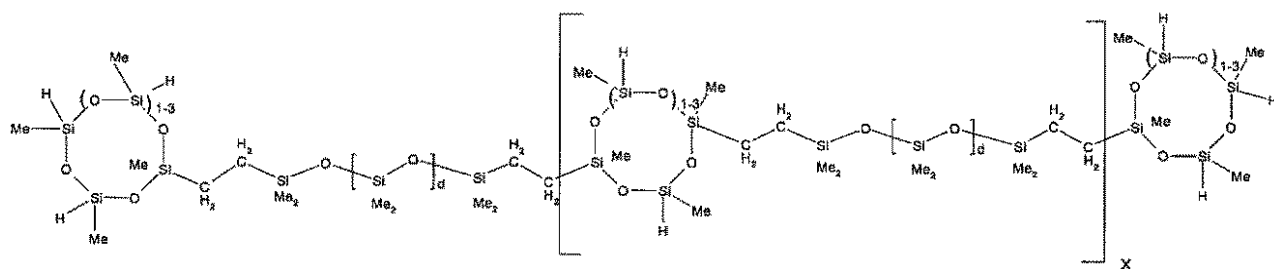
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

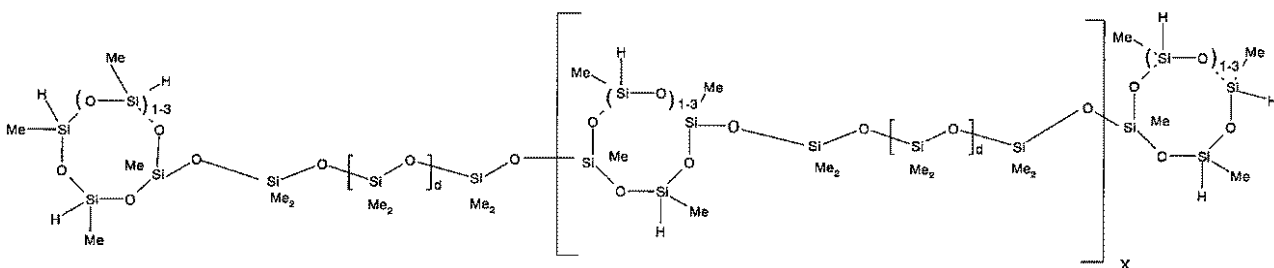
【請求項 1】

分子 1 個につき少なくとも 1 個のケイ素結合水素原子を含有するオルガノハイドロジェンシリコン化合物であって、下記構造：

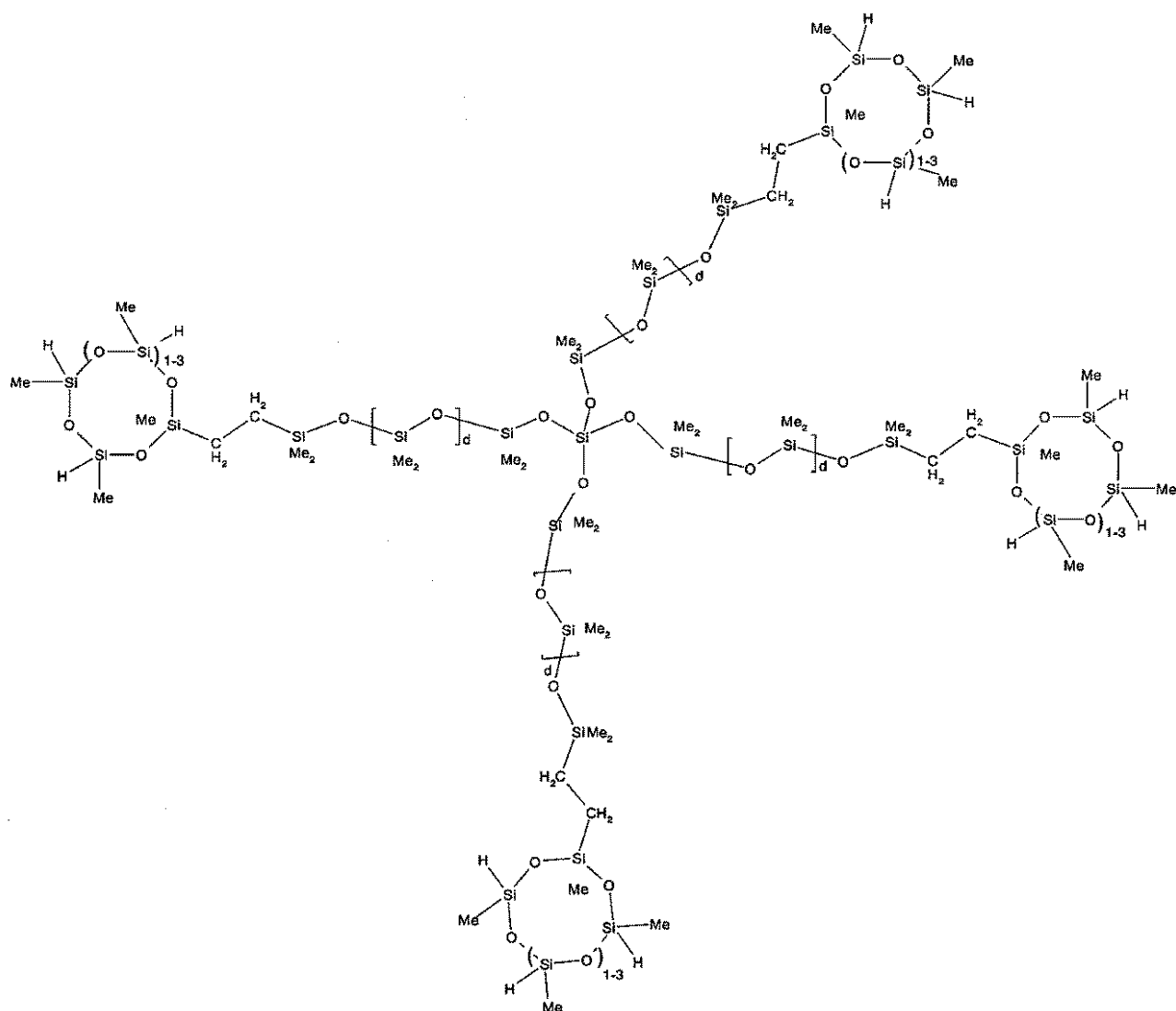
【化 1】



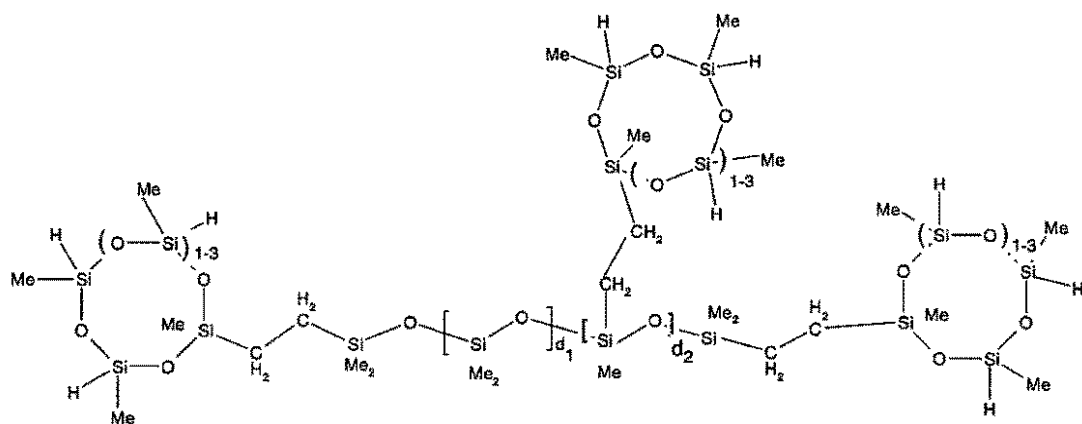
【化 2】



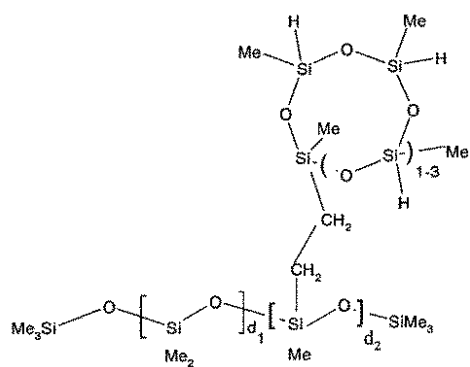
【化 3】



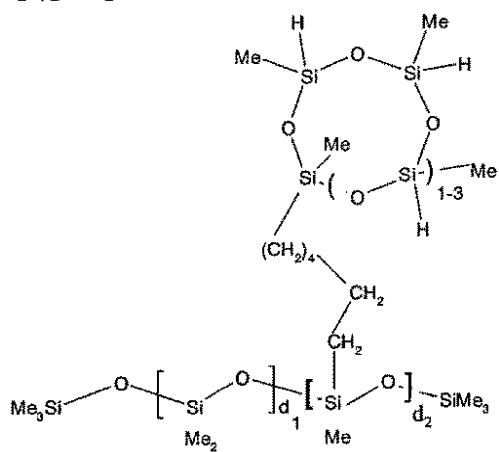
【化 4】



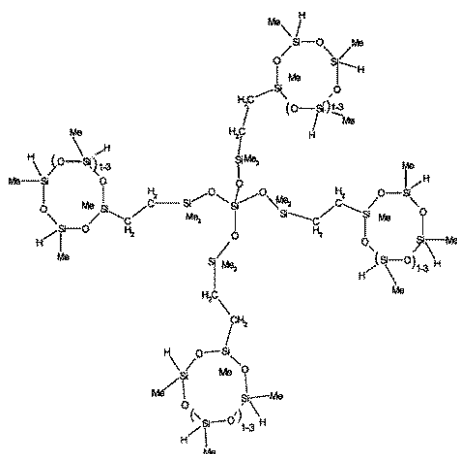
【化 5】



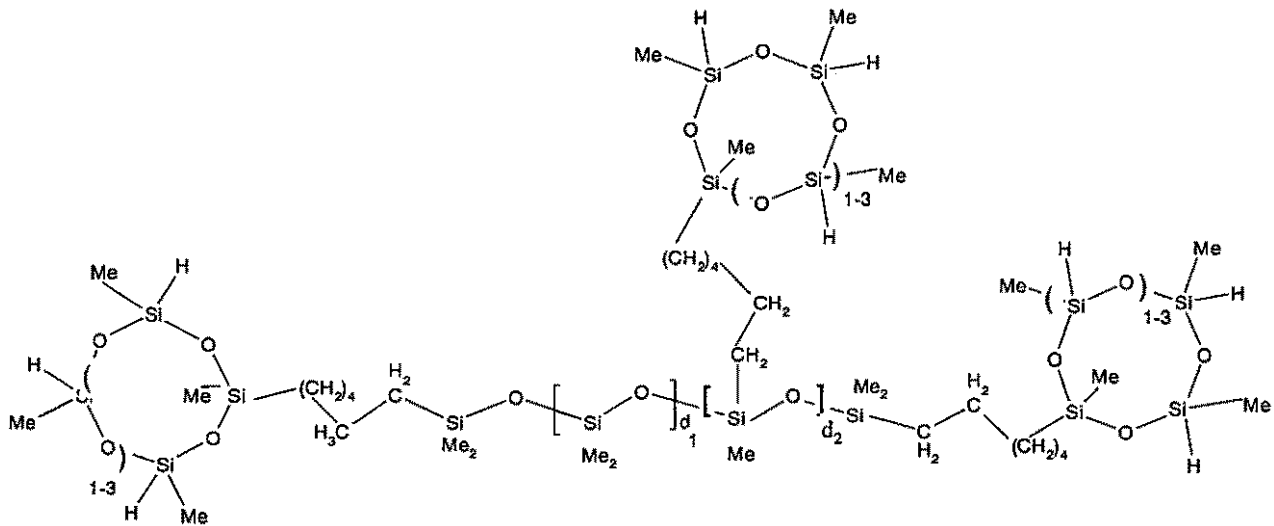
【化 6】



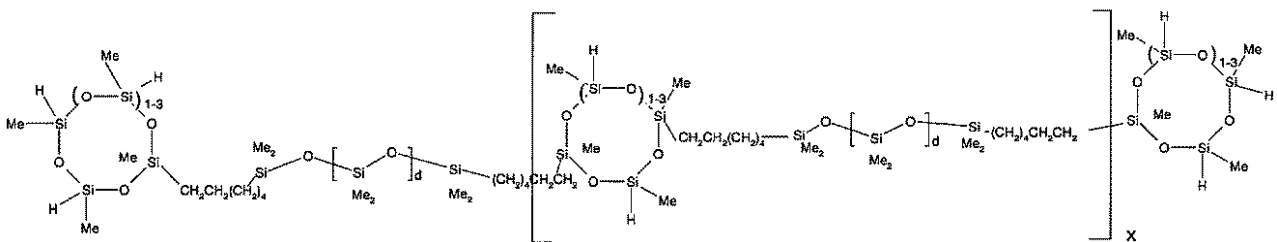
【化 7】



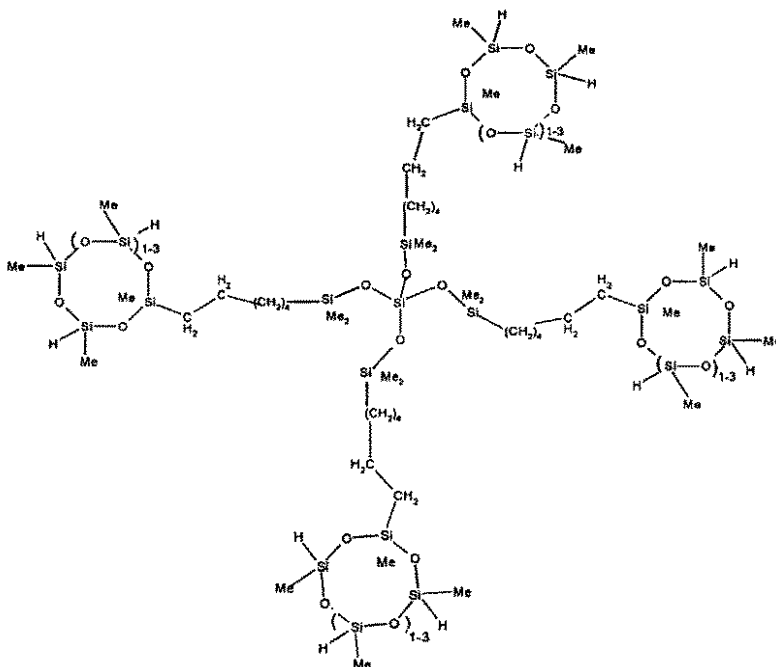
【化 8】



【化 9】



【化 10】



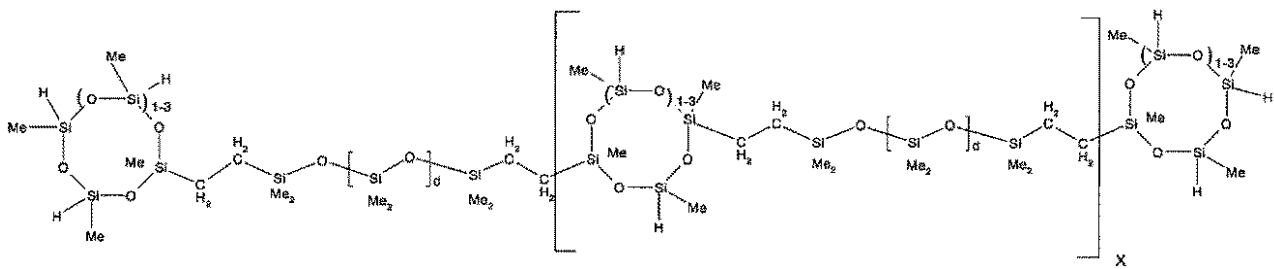
(式中、Me はメチルであり、 $d_1 + d_2 = d$ であり、 d は 1 ~ 5000 の整数であり、 x は 1 ~ 100 の範囲である)

のいずれかで表される、オルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【請求項 2】

前記オルガノハイドロジェンシリコン化合物は、下記構造：

【化 1 1】



(式中、Me はメチルであり、d は平均 8 であり、x は 1 ~ 15 の整数である)
で表される、請求項 1 に記載のオルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【請求項 3】

Si H 結合の 5 ~ 70 % が、炭化水素、オキシ炭化水素、またはアリルグリシジルエーテルもしくはビニルシクロヘキシルエポキシドのヒドロシリル化により誘導される官能基で置換される、請求項 1 または 2 に記載のオルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【請求項 4】

Si H 結合の 5 ~ 50 % が、アリルグリシジルエーテル (プロピルグリシジルエーテル基) またはビニルシクロヘキシルエポキシドのヒドロシリル化により誘導される官能基、アルキル基またはアルケニル基で置換される、請求項 1 または 2 に記載のオルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【請求項 5】

Si H 結合の 10 ~ 30 % が、アリルグリシジルエーテル (プロピルグリシジルエーテル基) のヒドロシリル化により誘導される官能基で置換される、請求項 1 または 2 に記載のオルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【請求項 6】

前記オルガノハイドロジェンシリコン化合物は、1 分子当たり少なくとも 2 個のケイ素結合水素原子を含有する、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載のオルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【請求項 7】

前記オルガノハイドロジェンシリコン化合物は、1 分子当たり少なくとも 3 個のケイ素結合水素原子を含有する、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載のオルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【請求項 8】

前記オルガノハイドロジェンシリコン化合物は、5 ~ 50,000 mPa・s の粘度を有する、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載のオルガノハイドロジェンシリコン化合物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0049】

上述の炭化水素、オキシ炭化水素および官能基の例としては、基 A に関して本明細書中に後述する基のタイプが挙げられる。好ましい基としては、アリルグリシジルエーテル (すなわち、プロピルグリシジルエーテル) またはビニルシクロヘキシルエポキシドのヒドロシリル化により誘導される官能基、アルキル基 (例えば、1 - ヘキシル、1 - オクチルおよびエチルシクロヘキサン) およびアルケニル基 (例えば、5 - ヘキセニル) が挙げられる。Si H 結合は、アリルグリシジルエーテルのヒドロシリル化により誘導される官能基で置換されるのが最も好ましい。